

●幾何学賞

木田良才氏(京都大)「写像類群の測度同値剛性定理の証明」

本田公氏(南カリフォルニア大)「接触トポロジーの研究」

●解析学賞

西谷達雄氏(大阪大)「双曲型偏微分方程式の初期値問題に関する適切性の研究」

相川弘明氏(北海道大)「複雑領域上のポテンシャル論の研究」

小川卓克氏(東北大)「実解析的手法による臨界型非線形偏微分方程式の研究」

●ショウ賞

サイモン・ドナルドソン氏(インペリアル・カレッジ・ロンドン), クリフォード・
タウベス氏(ハーバード大)「3,4次元幾何学への貢献」

ショウ賞は2002年に設立された賞で、天文学、生命科学、および医学、数理科学
においてその分野の発展に大きく寄与し、幅広い分野に影響を与えた研究者に贈ら
れる。

●アーベル賞

ミハイル・グロモフ氏(フランス高等科学研究所)「幾何学への革命的な貢献」

●日本数学会賞春季賞

小沢登高氏(東京大)「離散群と作用素環の研究」

●代数学賞

小木曾啓示氏(慶應義塾大, 大阪大)「一般化されたカラービ・ヤウ多様体の研究」

雪江明彦氏(東北大)「概均質ベクトル空間の数論的・幾何学的研究」

●日本数学会賞出版賞

高瀬正仁氏(九州大)「古典的著作の優れた翻訳をはじめ、数々の執筆活動を通して
数学文化の普及に貢献」

早川書房「数理を愉しむシリーズ」

筑摩書房「ちくま学芸文庫 Math & Science」

●日本学士院学術奨励賞

辻雄氏(東京大)「p進ホッジ理論とその応用」

●作用素環賞

小沢登高氏(東京大)「II- $\{1\}$ 型 von Neumann 環の構造に関する研究」

●日本 IBM 科学賞

河原林健一氏(情報学研究所)「アルゴリズム的グラフマイナー理論の研究」

●文化勲章

伊藤清氏(京都大学名誉教授, 故人), 小林誠氏(高エネルギー加速器研究機構), 益

川敏英氏(京都産業大)が、2008年度の文化勲章を受章した。文化勲章は科学技術や芸術など、文化の発展や向上にめざましい功績のある者に授与される勲章で、今年度は8人に授与された。

●フンボルト賞

小林俊行氏(東京大)が「リーマン幾何学の古典的な枠組みを超えた不連続群の理論、無限次元における対称性の破れを代数的に記述する数学理論、複素多様体における可視的作用の理論などを創始し、代数・幾何・解析にまたがる数学の新しい研究領域を興した」ことによりフンボルト賞(数学部門)を受賞した。

●ノーベル物理学賞

南部陽一郎氏(シカゴ大),

小林誠氏(高エネルギー加速器研究機構),

益川敏英氏(京都産業大)「対称性の自発的な破れ」の発見と「小林-益川理論」による素粒子物理学への貢献」

●イグノーベル認知科学賞

中垣俊之氏(北海道大/理化学研究所),

小林亮氏(広島大),

石黒章夫氏(東北大),

手老篤史氏(北海道大/Presto JST),

山田裕康氏(名古屋大/理化学研究所),

アゴタ・トス氏(セゲド大)

「単細胞生物の真正粘菌にパズルを解く能力があったことの発見に対して」

●日本数学会賞秋季賞

小澤正直氏(名古屋大)「量子情報の数学的基礎」

●幾何学賞

葉廣和夫氏(京都大)「クラスパーに沿った絡み目と3次元多様体の手術の研究」

●解析学賞

佐藤健一氏「Levy過程と無限分解可能分布の研究」,

田村英男氏(岡山大)「量子力学におけるスペクトル解析」,

林仲夫氏(大阪大)が「非線形分散型方程式の漸近解析」

●建部賢弘特別賞

川口周氏(大阪大)「標準的高さの理論」,

加藤淳氏(名古屋大)「調和写像分散流の初期値問題の適切性の研究」,

矢野孝次氏(神戸大)「Excursion測度と極限定理への応用」

●建部賢弘奨励賞

戸松玲治氏(東京大・学振特別研究員 PD)「作用素環的量子群の研究」,
前川泰則氏(九州大)「渦度方程式の数学解析」,
村井聡氏(大阪大・学振特別研究員 PD)「ジェネリックユニシャルイデアルと単項式イデアルの有限自由分解の研究」,
富田直人氏(東京女子大・学振特別研究員 PD)「モジュレーション空間に関する基礎研究」